長門有希の為の消失

ギロチン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
　この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
長門有希の為の消失

【Nコード】
N8800R

【作者名】
ギロチン

【あらすじ】
　長門有希好きの行楽です。
本編「涼宮ハルヒの消失」を読破、あるいは観賞した方にオススメいたします。

PS：
長門は嫁ではありません。
確率事象です。

対

キョン「長門ｏｎｌｙ？」

長門「こく」

バンッ

ハルヒ「待たせたわねっ！」

キョン「そろそろ冬休みだな」

ハルヒ「無視すんな」

♪オープニング♪

ハルヒ「クリスマス予定ある人いる？」

キョン「ある」

ハルヒ「ないのね」

キョン「聞けよ。いや、もういい」

ハルヒ「小泉君は？」

小泉「ありませんね。幸か不幸か、僕の予定は」

ハルヒ「みくるちゃんは？」

みくる「ふぇ？」

小泉「……………」

ハルヒ「もういいわ」

みくる「ふぇぇええ！？」

ハルヒ「有希！」

長門「ある」

ハルヒ「よね………………え！？（1カメ）」

小泉「何ですとっ！？（2カメ）」

みくる「ふぇ！？（3カメ）」

キョン「何！？（4カメ）」

長門「私にはクリスマスに予定がある」

ハルヒ「どんな予定よ！？」

長門「それは言えない」

ハルヒ「だ、だ、誰との予定よ！？」

長門「チラッ……」

キョン「え？」

長門「それは言えない」

ハルヒ「キョン！　あんた有希に何をしようって言うの！」

キョン「何もしない、断じてしない。こらっ、長門！」

長門「私は何も言っていない。しかし、今の貴方の言葉はやや残念ではある」

ハルヒ「キョン！　あんた死刑ね」

キョン「何故だ！」

ハルヒ「あれ、そう言えばあんた予定あるって言ってたわね」

キョン「今更だな。つか聞こえてたのかよ」

ハルヒ「あれは有希とデ、デ……散歩する予定だったのね！」

キョン「いや、あれはお前に合わせると面倒なことになりそうだから相槌をだな」

ハルヒ「なるほ……なるほくないわよ！　やっぱりあんたは死刑！　それと、ＳＯＳ団でクリスマスパーティーやるからね。やるったらやるんだから！」

有

ハルヒ「お待たせ！　じゃ、ＳＯＳ団クリスマスパーティーの打ち合わせを始めるわ」

キョン「わーい（棒読み）」

ハルヒ「何か案がある人いる？　北極にサンタ探しに行きたいとか、イルミネーションを見に行くとか」

長門「私はキョンと一緒にいられればそれでいい」

キョン「おい、まだそのネタ続くのか」

長門「続く」

ハルヒ「ちっ」

みくる「お、お、お茶入れますね」

ハルヒ「有希には特にあっついのお願いね！」

小泉「やれやれ」

キョン「小泉、お前はまた一人だけそうやって蚊帳の外にいやがって」

小泉「好きでこのスタンスを保っている訳ではありませんよ。そんなことより長門さん」

長門「なに」

小泉「羨ましいですね」

長門「どういう意味」

小泉「キョン君とクリスマスを過ごせるな・ん・て」

キョン「気色悪いことを言うな」

ハルヒ「カニ…カニはＮＧね」

キョン「ハルヒ、何か言ったか？」

ハルヒ「何も！」

ハルヒ「（台本と全然違うじゃない！　カニのとこ長いから一生懸命覚えたっていうのに！）」

みくる「お茶、ここに置いときま」

ハルヒ「ふんっ」

みくる「ふぇ！　あちゃちゃちゃちゃちゃちゃ」

キョン「八つ当たりをするな！　ハルヒ」

ハルヒ「五月蝿いわね。あらみくるちゃん、服が濡れちゃったわね。代わりは用意してあるわ。これを着なさい！」

みくる「ふぇ！？」

ハルヒ「（何としても、台本通りにしてみせるわ）」

長門「（……そうはさせない。クフフ）」

機

♪みくる着替え中♪

小泉「朝比奈さんには悪いですが、涼宮さんが落ち着いているのは我々にとって歓迎すべきことです」

キョン「神人だったか」

小泉「そうです。僕らが何より恐れているのはＳＯＲＥ。ここの所は…略」

キョン「寝てても起きてても迷惑な奴だ」

小泉「とんでもない…中略…涼宮さんは変化しています。そして我々も、朝比奈さんも、貴方も。そして多分、長門さんも」

キョン「（意外だな……長門が変わりつつあるのに、こいつも気づいていたとは）」

ある晴れた日のこと～♪

キョン「お、メールだ」

ｆｏｒ長門『ドアから離れて』

キョン「？　まぁ離れておくか」

ハルヒ「もういいわよ！」ガチャ

ハルヒ「（…………あるえ？）」

長門「……クスクス」

小泉「（ハッ。何だか閉鎖空間がうまれる予感が）」

小泉「僕、少し失礼しますね。朝比奈さん、凄くお似合いですよ。アデュー」

キョン「朝比奈さん、凄く可愛いですね」

朝比奈「ふぇ、あ、ありがとうございます」

ハルヒ「………」

長門「ちっ」

生

キョン「おいハルヒ、モールが足りないぞ」

ハルヒ「じゃあ買ってきて」

キョン「俺がか」

ハルヒ「あんたが！」

長門「私も一緒に行く」

ハルヒ「なっ」

みくる「おおお茶いれますね」

キョン「長門、理由を聞こう」

長門「私がついていったら迷惑？」

キョン「答えになってない」

長門「私は貴方と買い物がしたい。ただそれだけ」

ハルヒ「………」

ハルヒ「………」

ハルヒ「………」

ハルヒ「キョン、後で体育館の裏に来なさい」

キョン「何でだよ」

長門「私も行く」

ハルヒ「有希はいいわ」

長門「行く」

ハルヒ「ふんっ。勝手にしなさい」

命

体育館裏にて

キョン「えーと」

長門「………」

ハルヒ「キョン、正直に答えなさい。あんた、有希と付き合ってるの？」

キョン「……は？」

長門「付き合っている」

キョン「何！？」

ハルヒ「有希は黙ってなさい。私はキョンに聞いてるの。で、どうなの？」

キョン（何なんだよ。俺の所属はＳＦじゃなかったのか？　いつの間にラブコメみたいになってるんだ。仕方ない。なるようになれ！）

キョン「付き合っている」

ハルヒ「……聞こえないわ」

キョン「俺は長門と付き合っている」

ハルヒ「……もっと大きな声で！」

キョン「俺は長……ぐはぁ！　ってぇな！　何すんだよ」

ハルヒ「はぁ……はぁ。………キョンの馬鹿！　ばーか！」タタタタッ

長門「行ってしまった」

キョン「さりげなく抱きつくのはやめてくれ、長門」

体

キョン「モールか、結構いろいろあるな」

長門「そう」

キョン「ハルヒに聞いてみるか」

長門「私には聞かないの？」

キョン「……な、長門はどれがいいと思う？」

長門「貴方が好きなものなら、何でも」

キョン「………」ピッ

長門「………」

キョン「もしもし？　ハルヒ？」

ハルヒ『何よ！　今更謝ったって遅いんだからね。そもそも、謝って済む問題じゃないのよ！』

キョン「すまん」

ハルヒ『で、何よ！　私今クリパの準備の思案で忙しいって言わなかった？』

キョン「そのクリパの準備に俺を駆り出したんだろうが」

ハルヒ『そんなこと言ったかしら』

キョン「お前な。今からモールの写メ送るから、どれがいいか選んでくれ？　なんなら色を指定してくれても」

ハルヒ『その必要はないわ。全部買い占めなさい！』

キョン「はぃ？」

ハルヒ『備えあれば憂いなんて微塵もないの！　じゃ、頼んだわよ』

プツッ

キョン「全部ったって、２０００円くらいしないか、これ」

………

店員「２５７０円になります」

長門「ここは私が出すから」

キョン「いやいいよ」

長門「私が出す」

キョン「いやい……」

長門「（重なりあう二人の手。計画通り）」

キョン「じゃ、じゃあお言葉に甘えて」

長門「（彼の鼓動が著しい変化を見せている。さらに緊急事態発生、顔が熱い）」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8800r/

長門有希の為の消失

2011年7月17日00時42分発行